

MAP①/B-2

① 上の宮八幡神社

創建年代は不詳だが、祭神は応神天皇で、昔境内に牛頭天王の小祠が祀られ、古い伝説と習俗が伝えられている。7月15日には、牛頭天王祭が執り行われている。毎年1月14日には無病息災、五穀豊稔を祈願して「どんと焼」が行われており、区内では珍しい行事のひとつとなっている。



MAP①/B-2

② 宗泉寺 (エビネ、五百羅漢)

浄土宗。開山は正保年間。下って寛文年中に、北寺尾村名主市右衛門が二十一世を迎えて再興した。境内には念仏供養塔、無縁供養塔、地藏菩薩、庚申塔、馬頭観音がある。春にはエビネ、しだれ桜、サツキ、ボタンなど四季折々の花が楽しめる庭園があり、さまざまな表情や姿をした五百羅漢に懐かしい人の面影を偲ぶことができる。



MAP①/B-1

③ 獅子ヶ谷横溝屋敷

横溝屋敷は表門(長屋門)、主屋などの屋敷構えが江戸時代の農村生活の原風景を残している貴重な文化遺産。古民家の保存と活用を図る横浜市最初の施設で、昭和63年横浜市指定有形文化財(建造物)となった。2階の展示室には明和時代の村絵図や農村文化、行事等々の資料が展示されている。また、四季折々に、七草粥、糺まつり、七夕まつり等の行事も行われている。



MAP①/B-2

④ 車地藏

享保3年(1718)に建立。高さ1.6mもある等身大の石の地藏で、お堂の中で道行く人々を見守っている。お堂の入口左側の柱には、小さな木製の車が取り付けられており、後生車といい、回すと六道の苦難から救われると信じられていて、この道を通った人たちは、その木の車を回して通る。このことから車地藏の名が生まれたといわれている(横浜市登録有形民俗文化財)。



MAP①/B-2

⑤ 獅子ヶ谷市民の森・せせらぎの小径

面積18.5ha、昭和50年に横浜市が減少する緑を守り、自然そのままの形で後世に残すため、地権者約40名の協力を得て開設。樹木は常緑、落葉、針葉樹、樹齢100年以上のヤマザクラ、野草ではスミレ等、豊富な植物類が、虫や鳥を育み森の散策を楽しいものしてくれる。四つの広場や尾根道がある。(獅子ヶ谷せせらぎの小径)は、西谷広場の池から横溝屋敷手前に続く散歩道。



MAP①/B-2

⑥ 渋沢金井公園 (柿の木公園)

“子どもたちが安心して遊べる場所を”と地元住民が、自宅を含め約1000坪の土地を寄付されて平成5年にできたもので、地名の渋沢に寄進者の名前を加えて「渋沢金井公園」と名付けられた。敷地内の樹齢300~400年とも言われている大きな柿の木(禅寺丸)がシンボル。秋になり赤く色づく柿もぎ大会が盛大に行われる。



MAP①/C-2

⑦ ニツ池公園

古くから灌漑用溜池として獅子ヶ谷村と駒岡村の田畑を潤してきた。池は慶長年間(1596~1615)に作られたといわれ、元はひとつの池であったが、100年ほど後、二つの村に水を均等に分けるために真中に堤を作り村境とした。この堤には龍神伝説もある。平成28年には駒岡池が池の環境を活かした公園として整備され、人々に親しまれている。



MAP①/C-1

⑧ 常倫寺・駒岡不動尊

曹洞宗。天文11年(1542)の草創と伝えられている。元禄6年(1693)小田切土佐守直利が梵鐘を寄進。宝永4年(1707)久志本左京亮常勝が駒岡村を知行。本堂背後の山腹に、旗本久志本氏歴代の墓所(横浜市登録文化財)がある。また境内の銀杏の大樹は、樹齢300年以上といわれている。乳母イチョウ伝説がある。(不動尊)寺草創の頃、行基作と伝わる不動明王像を安置。1.5,9月に不動講。



MAP①/D-2

⑨ スノーヴァ新横浜

平成11年、室内スノーゲレンデとして開業した。一年中マイナス3度以下に調整されているので、スキーとスノーボードが夏でも利用できる。全長60m、幅30m、斜度10度・14度。本格的ハーフパイプも設置。さまざまなスクールも開催されている。ボードやウェアなどのレンタルもあるので、初心者からプロを目指す人までOK。ギャラリーからの見学(無料)もできる。



MAP①/D-2

⑩ 県立三ツ池公園

三つの池は、江戸時代に農業用水のため池として浚渫・整備された。その後、昭和29年に県立公園に指定された。78品種およそ1600本のサクラが楽しめることから「さくら名所100選」にも選ばれている。豊かな樹林や四季折々の花とともに、都会の中でありながら、ひとときのやすらぎを私たちに与えてくれる。野球場やテニスコート、多目的広場などの運動施設を備えた総合公園。



MAP①/D-2

⑪ 上台北遺跡・上台遺跡・小仙塚貝塚

〈上台北遺跡〉弥生時代の遺跡で、周辺には縄文時代から古墳時代までの著名な遺跡が数多く存在している。ここから出土した人面土器は全国的に有名(神奈川県指定重要文化財)。(上台遺跡)縄文前期の貝塚と、弥生時代の住居跡が多数発見されている。末吉中学校に、近辺の遺跡の出土品が陳列されている。〈小仙塚貝塚〉鶴見高校内に存在する貝塚。写真は上台北公園。



MAP①/D-1

⑫ 歴史と緑の散歩道

兜塚から緑の多い丘陵の尾根伝いに上の宮に至る4.5kmの散歩路。昭和57年に鶴見区役所、鶴見歴史の会によって整備された。コースには数基の道標が設置されている。コース沿いには、古代の遺跡が多くあり、この道は中世の「鎌倉街道下の道」であったといわれている。



MAP①/D-1

⑬ かぶと塚ふれあいの樹林

外形が兜の形をした6世紀頃の古墳跡があった。昭和13年に発掘調査したところ、古墳時代の出土品のほか、弥生・縄文時代の遺構を発見した。また、太田道灌が江戸を中心とした支城を構築するため、加瀬の台で一晩を過ごした際、夢の中で驚にさらわれた兜をこの地に埋めたという伝説の碑がある。樹林の一角に、「新編武蔵風土記稿」に出ている駒岡浅間神社がある。



MAP①/D-1

⑭ 駒岡堂ノ前古墳

鶴見川に面する丘陵地帯に築かれた6世紀後半頃と推定される前方後円墳。墳長25m、後円径16m、高さ4.5m。墳丘は削られ規模や埋葬施設については不詳。円筒形の埴輪・家形・太刀形・矢を入れ背負う武具をかたどるユギガタ・貴人を飾る扇状のサンバガタ等の形象埴輪が出土。出土した埴輪は師岡熊野神社に保管。駒岡周辺には5世紀~7世紀頃の古墳が多数ある。



MAP①/D-1

⑮ 瓢箪山遺跡 (お穴塚)

明治40年(1907)山腹を崩す工事中に見つかった2メートルほどの穴で、穴の中は10畳ほどの広さであり学術調査により須恵器、玉類、直刀がみつかり、付近の人たちは何かご利益があるお穴様だということで、各地から参詣者が集まるようになった。その盛況は長く続かず、山は削られ、今はその面影を残す石碑が立っている。



MAP①/D-1

⑯ 鷹野大橋 (富士の眺望)

鶴見川と矢上川が合流する地点で、上流に向かって河川敷が連続し、鷹野大橋及び鷹野人道橋からは、広々とした河川空間と一体となった富士山を見ることができる。水辺にはアシ原が広がり多くの魚やカニ、水鳥等が生息し、鶴見川下流域の貴重な自然環境が残っている。平成16年度に「関東の富士見百景」の「鶴見川からの富士」の一つに選定されている。



MAP①/D-1

⑰ 大曲広場・駒岡防災船着場

河川敷には市民まち普請事業により駒岡の人たちが整備した大曲広場と、水際には震災等災害時に緊急物資輸送や防災活動のための船着場が整備されている。毎年秋には市民によるクリーンアップ&釣り大会などのイベントが行われており、これらの施設のある駒岡河川敷は平成23年度に国土交通省の「手づくり郷土賞」に選定された。



MAP①/D-2

⑱ 真福寺・末吉不動

天台宗。本尊は不動明王、慈覚大師円仁が貞観年中(859~864)に開創したといわれている。本堂の背後にある不動塚は、慈覚大師による手植えの松の遺跡といわれ、松は天保のころ枯れてしまい、その跡に不動明王降臨遺跡の碑が建てられた。この不動尊の開帳は60年に一度とされている。また、山門に入った左には不動の滝がある。



MAP①/D-2

⑲ 寶泉寺と下末吉台地

曹洞宗。寺はこの地方の領主であり、当時川崎城主であった間宮新左衛門信冬が開基となって永正元年(1504)に建立された寺。徳川家康が開東に入国の後、寺領三十石を寄進された。境内の禅風の庭園はすばらしい。(下末吉台地)寶泉寺裏に、かつて露頭していた下末吉層があり、これから川崎、横浜に広がる海拔40-60メートルほどの台地は下末吉台地と名付けられている。



MAP①/D-2

⑳ 愛宕神社 (湯花神事)

往古は鶴見川沿いに鎮座していたが、洪水で社殿が流され、現在地に再建。湯花神事は湯立神事とも呼ばれ、豊作祈願や人々の無病息災と家内安全の守りを受けてくれるものとして行われてきた。8月の第1日曜日の祭日に、釜で湯を沸かし、宮司が湯壺に浸した湯玉を参拝者に放散して、無病息災・家内安全などを祈願する。



MAP①/E-2

㉑ 史季の郷 (矢向・江ヶ崎歴史資料室及び交流室)

新鶴見小学校の一角に、平成28年に開設。地域が一体となって運営を行う私設施設。多世代が集う交流拠点であり、ふるさとの歴史を学ぶ役割も担う。一私たちのまちを私たちでつくる。もっとまちが好きになる。を合言葉に、「地域を次世代に繋げたい」と、農機具の常設展示や地域の声を生かした各種イベントや展示を実施。区内の小学生の社会科見学等にも活用。



MAP①/E-1

㉒ 寿徳寺

曹洞宗。本尊は釈迦如来。元和元年(1615)宝泉寺第六世大室良奕の開創。南北朝時代の応安3年(1370)の板碑や中世の五輪塔(墓石)があり、古くから宗教施設があったと考えられる。江戸後期の御典医三角邸の庭石の一部(差し直し井筒と太閤石)が、昭和53年に当寺へ移築。三門前の地藏堂には寛文11年(1671)建立の区内最古の合掌阿弥陀庚申塔。富士講先達の鶴志田與右衛門の墓と報恩碑がある。



MAP①/E-2

㉓ 江ヶ崎八幡神社

天文元年(1532)荒川伊豆守景親の創建と伝う。昭和2年新鶴見操車場の着工に伴い、現在地に移転。天明8年(1788)に荒川数馬が奉納した衣冠束帯の左右大臣像(石造随人二基)と狛犬は、江戸時代から11代続いた旧鶴見村名石工、飯島吉六の作。狛犬は吉六最初の作。明治42年(1909)には大六天社を合祀。境内の稲荷社は初午祭りを毎年開催。村人が力自慢を競った力石がある。



MAP①/E-2

㉔ 最願寺 (板碑)

浄土真宗。創立は延慶元年(1308)といわれている。寺伝によると往古は真言宗であったが、慶長年間に真宗に改められたといわれる。本堂前の板碑は区内最大のもので、緑泥片岩製の板碑で、石の頭部を山形とし、その下に二条の切り込みがつけられている。延慶2年2月9日の銘があり、当寺開山の墓標と伝えられている。



MAP①/E-2

25 良忠寺 (煉瓦の碑)

浄土宗。仁治元年(1240)の創立と伝えられ、鎌倉材木座光明寺を開いた記主禅師良忠上人を開山としている。境内には伝説で有名な弘法大師の作といわれる身代わり地藏や新田義興の矢を止めた矢止めの地藏がある。また、明治～昭和の初めに矢向にあった煉瓦工場の名残を示す碑がある。また、区内最古といわれる徳治元年(1306)銘の板碑がある。



MAP①/E-2

26 ニヶ領用水路地跡

ニヶ領用水は、慶長2年(1597)、徳川家康より治水と新田開発の命を受けた代官小泉次太夫が、約14年の歳月をかけて完成させた。全長32km、灌漑面積は約2000haに達し、稲毛領、川崎領など、あわせて六十ヶ村の耕地を潤し、米の収穫量は飛躍的に伸びた。この貴重な用水も本来の用途を終えて埋め立てられ、跡地は昭和47年道路・緑地帯になった(横浜市登録文化財)。



MAP①/E-2

27 日枝神社 (市場神代郷神楽)

寛永15年(1638)の創建で、古くは山王社といい、矢向村、市場村など七ヶ村の鎮守で、天保末年になって矢向一村の鎮守となり、明治6年(1873)日枝神社と改称。境内に豊遊石と刻んだ大石があり、社殿には勝海舟揮毫の「日枝神社」の扁額。平成28年に拝殿・本殿を修復・改築。元禄4年(1691)ごろ始められたといわれる市場神代郷神楽が継承されている(横浜市無形民俗文化財)。



MAP①/E-1

28 矢向駅・シンボル楠

矢向駅は昭和2年に南武鉄道が川崎・登戸間開通時に開設。駅名は地元の強い要望で矢向駅に。ホームは横浜市と川崎市にまたがる。開設により田畑が、工場と商業地に変貌。東宝映画「めし」の撮影現場になった。開業記念に楠・金木犀・モッコクを植樹。昭和20年4月15日の鶴見大空襲で矢向駅舎が焼失。楠は奇跡的に蘇生し緑豊かに枝葉を茂らせている。



MAP①/B-3

29 建功寺

曹洞宗。永禄年間、小田原北条氏の家臣で寺尾城主の諏訪三河守が、創建したと伝えられている。明治44年(1911)大本山總持寺が石川県の能登から鶴見への移転に際しての功により、とくに本山近門寺院と永代色衣着用の栄誉をうけた。当寺は諏訪氏の定紋「諏訪棍」を寺紋としており、諏訪氏との深いかわかりがうかがわれる。



MAP①/B-3

30 馬場赤門 (旧澤野家長屋門)

江戸時代末期に周辺四ヶ村(東寺尾、北寺尾、西寺尾、馬場)の総代名主を務め名字帯刀をゆるされた澤野家の門。幕府から特に紅殻塗りを許された格式の高い名主門でその色から赤門といわれている。この門は、安政年間に建てられたものだが、平成3年に復旧工事を行った(横浜市認定歴史的建造物)。



MAP①/B-3

31 東寺尾ふれあいの樹林

土地所有者の協力のもと、「ふれあいの樹林」として保全、公開されている約2haの森。ウグイスなど鳥の鳴き声が響き、とても賑やか。夏にはニイゼミやツクツクボウシなどセミの音がこだまする。アゲハチョウやモンキアゲハなどが見られる。近くに入江川せせらぎ緑道もあり、気持ちよく散策ができる。



MAP①/B-3

32 松蔭寺

臨済宗。本尊は釈迦如来。鎌倉建長寺第三十世仏寿禅師が、建武元年(1334)に開創と伝えられる。仏寿禅師の墓所は墓地の中ほどにある。当寺は数度の火災のため、什宝日記を失ってその沿革などは判然としない。寺宝に銅像阿弥陀如来坐像(横浜市登録文化財)。奈良時代の優作で、現在上野の国立博物館に寄託されている。5月に入道祭が行われている。



MAP①/B-3

33 入江川せせらぎ緑道

昔の入江川は、水田耕作や野菜洗いに利用され小魚も住む清流だった。昭和中ごろから、一般家庭からの雑排水で川は汚染された。その後、下水道の普及で水質は改善されたが、水量が少なく人を遠ざける川になってしまった。下水処理場から高度処理水を流し、清流を復活させ、今では小魚や水鳥が暮らす小川となっている。平成10年度の「手づくり郷土賞」を受賞。



MAP①/B-3

34 馬場花木園

平成11年に開園した市内ではめずらしい和風庭園。以前は、ボタン・菖蒲などが楽しめる農園として親しまれていた。現在は、池の周りを中心に四季折々に表情を変える花々・樹木を楽しむことができる。また水鳥の遊ぶ姿も見られゆったりとした気分になる。園内の休憩棟は茶会などに利用できる。**休** 第3火曜



MAP①/B-3

35 馬場稲荷 (寺尾稲荷)

寺尾城址の西斜面にある稲荷社で、昔は寺尾稲荷と呼ばれていた。寺尾城主の諏訪馬之助は馬術が得意だったが、この稲荷に日夜祈願したところ大願成就した。馬上安全、馬術上達の祈願に江戸をはじめ、各地から参詣が多かった。旧東海道鶴見橋(現鶴見川橋)近くに「是より二十五丁、寺尾稲荷道」の道標がある。



MAP①/B-3

36 寺尾城址

信濃の豪族諏訪三河守が鶴見の寺尾に進出してきて以来、諏訪一族が居城を構えていたが、甲斐の武田信玄が小田原城を攻撃した際、落城したといわれている。今では宅地化されたものの、城の一部である空堀、土塁、くるわ跡が残されている。貴重な遺構は整備され殿山公園として保存されている(横浜市登録文化財)。



MAP①/B-3

37 白幡神社

古くは白幡大明神と称し、寺尾四ヶ村の鎮守で、応神天皇を祭神。馬場町建功寺の旧記によると「白幡大明神は足利尊氏將軍なり、尊氏將軍より十七代目足利義將軍代、永享7年(1435)寺尾城主諏訪勲請す」とある。また棟札によれば、貞享4年(1687)、享保12年(1728)等に社殿を再建、改築が行われた。



MAP①/C-3

38 寶藏院 (源平五色の椿)

真言宗智山派。慶安2年(1866)の古文書により、鎌倉時代以前に草庵されたものと推定されている。境内には源平五色の椿があり、全国でも珍しい五色に咲き分けの名木で、樹齢は600年以上、県の名木百選に選定されている。本堂真裏には壺泉があり、一年中涸れることなく、龍の水、命の水とも言われている。足引き地藏や墓地には珍しい左文字(鏡文字)の墓がある。



MAP①/C-3

39 鶴見配水池 (馬場の給水塔)

鶴見の高台に飲料水を送るために昭和12年に建築された。高さ約26m、直径8.5mの給水塔は、「ねぎ坊主」の愛称で親しまれている。新しいポンプ場が昭和47年に完成したため、給水塔は昭和48年以降使命を終えた。区内外から遠望できるランドマークとなっている。配水池の広い敷地の木々と併せ四季折々の表情を見せる。



MAP①/B-4

40 キリンビール横浜

明治3年(1870)、W・コーブランドが横浜山手にビール醸造所・スプリングバレーを建設。明治40年、麒麟麦酒(株)に引き継がれたが、関東大震災で倒壊し、大正15年(1926)に生麦に移転。平成3年と平成28年にリニューアル。プロジェクションマッピング等による工場見学や新設の「キリン」等により海からもアクセスでき、子どもから大人まで楽しめる。



MAP①/C-4

41 生麦事件参考館・発生場所

近代日本の幕開けの発端となった生麦事件は、文久2年(1862)8月21日、薩摩藩島津久光の行列が生麦村(生麦4-25付近)を通り中、馬に乗ったイギリス人と鉢合わせとなり生麦事件が発生した。地元の浅海武夫氏が収集した国内外の生麦事件関係資料を生麦駅近くの参考館で展示している。要予約: ☎ 503-3710 / FAX 503-4580



MAP①/B-4

42 生麦事件碑

鶴見の黒川荘三(鶴見神社宮司)は事件が風化しつつあるのを憂いて、明治16年(1883)、4人のイギリス人のうちリチャードソンが落命した場所に事件碑(横浜市登録文化財)を建てた。碑の撰文は『西国立志編』の翻訳で知られる中村正直(号は敬宇)。毎年8月21日には、顕彰会の人たちにより慰霊祭が行われている。平成29年6月撮影



MAP①/C-4

43 安養寺

浄土宗。本尊は阿弥陀如来。明応9年(1500)草創。山門入口に弁天堂があり、弁財天本尊の体内仏は弘法大師作と伝えられ、その厨子に「元禄十五年籍月二十日施主関口氏云々」の銘文。墓地には、生麦村名主関口家・トマトケチャップの創始者清水興助等が眠る。関口東園は通称藤右衛門といい、寺子屋を開いている。



MAP①/C-4

44 道念稲荷と原の神明社 (蛇も蚊も)

毎年6月第一日曜日に道念稲荷社と原の神明社の二ヶ所で行う伝統的な祭り「蛇も蚊も」(横浜市指定無形民俗文化財)。300余年前から始められたと云う。大蛇によって疫病を退散させようとしたことが始まり。別は大蛇にまつわる夫婦の伝説もある。茅で作った20m程の大蛇を担ぎ、「蛇も蚊も出たけ、日和の雨け」と声をかけながら町内を練り歩く。疫病退散・海上の安全・豊年大漁・子供の成長等々の祈願といわれる。



MAP①/C-4

45 東福寺 (子育て観音)

真言宗智山派。寛治元年(1087)醍醐寺の勝覚僧正の開創と伝えられている。本尊は子育て観音で知られる如意輪観音で、子年毎に開帳される。江戸時代には参詣者が多く、門前では子育てまんじゅうが売られ、鶴見名物の一つとなっていた。生麦村の医師小島玄氏の墓があり、また芭蕉や飯田九一の句碑もある。



MAP①/D-3

46 大本山總持寺

曹洞宗の大本山。本尊は釈迦如来。元亨元年(1321)創建。明治44年(1911)石川県から鶴見に移転。昭和40年大祖堂、同44年に三門が竣工し七堂伽藍が整う。平成17年に仏殿など16件の建物が国の登録有形文化財。墓所に浅野総一郎・芦田均・水原茂・小日山直登・前田青郁・諸橋轍次・石原裕次郎など著名人が多数眠る。初詣・節分・盆踊りなどには多くの人々が賑わう。



MAP①/C-3

47 響橋 (めがね橋)

昭和16年竣工。鉄筋コンクリート固定アーチ橋。長さ48m、アーチの高さ約13m。橋下の音が反響したので響橋となった。「かながわの橋100選」の一つ。昭和15年の東京オリンピックのマラソンコース折り返し地点に予定されていた。めがね橋の愛称で親しまれていて、国道1号の鶴見付近を車で走行する時のランドマークとなっている(横浜市認定歴史的建造物)。



MAP①/D-3

48 諏訪館跡・諏訪古墳・諏訪坂稲荷社

諏訪坂には寺尾城主諏訪馬之助の館があった。諏訪坂公園には馬之助鎮めの石・諏訪物見の松などを伝える石碑・諏訪坂道標などを一隅に集めて保存。枯死した松の根元から出土した石棺からは、人骨・玉類・鈴・直刀、棺の内外からは埴輪・土偶・土馬などが出土。奈良時代の古墳と推定。稲荷社にはご神体と学問の神様の菅原道真の石像が祀られ、地域で大切に守っている。

